

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4678900194
法人名	インターナショナル・ホスピタル・サービス株式会社
事業所名	グループホーム美笠
訪問調査日	平成20年8月8日
評価確定日	平成20年11月6日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4678900194
法人名	インターナショナル・ホスピタル・サービス株式会社
事業所名	グループホーム美笠
所在地	鹿児島県奄美市笠利町大字中金久113-1 (電話) 0997-63-2200

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年8月8日	評価確定日	平成20年11月6日

【情報提供票より】(20年 7月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月8日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての 1階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月 20日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90.7 歳	最低	79 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	笠利病院 (含む歯科)
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

笠利の中心地域に関連経営母体の病院と隣接して設置されており、医療連携が緊密になされている。そのため、利用者はもとより、家族・スタッフ共に保健医療の面で安心感を与えるホームとなっている。スタッフは利用者中心の支援に取り組んでおり、利用者の表情も穏やかで労わり合った生活がなされている。全員常勤職員となっており、資格取得など資質向上への意欲も高い。きめ細やかな介護計画と支援により、日中はハビリパンツをはく人もゼロになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスの理念の作り上げはこれからである。自己評価・外部評価の活用は少しずつであるが進んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義について、管理者の立場で自己評価をして職員と協議もして結果をまとめた。前年度の外部評価結果についても協議するなど自己評価・外部評価を活かすように努力している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議を定期的開催している。ホームの案内板の設置、美笠新聞の発行、地域との協力体制の意見が出され取り組みが進められている。また、家族の意見も取り上げ、サービス向上に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族がグループホームに奉仕作業に来て、畑にパイナップルやバナナなどや四季折々の野菜を作ったりして。このような共同作業の時間などを通して運営や苦情、相談ごとなど何でも話し合い、意見を運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	八月踊りなど地域の行事にも参加し交流を図っている。また、地域のボランティアの交流や来訪者も受け入れている。隣接の病院との交流もはかり馴染みの交流ももたれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を作り上げるには至っていないが、地域の中でその人らしく生活する取り組みはなされたい。		地域密着型サービスとしての理念を作り上げることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日申し送り時に理念を唱和し、お互いに確認し介護にあたっている。カンファレンス時に理念の浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	八月踊りなど地域の行事にも参加し交流を図っている。また、地域のボランティアの交流や来訪者も受け入れている。隣接の病院との交流もはかり馴染みの交流がもたれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について、管理者の立場で自己評価をして職員と協議もして結果をまとめた。前年度の外部評価結果についても協議するなど自己評価・外部評価を活かすように努力している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催している。ホームの案内板の設置、美笠新聞の発行、地域との協力体制作りの意見が出され取り組みが進められている。また、家族の意見も取り上げ、サービス向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	笠利の特性・地域情報・遺産相続のことなどや、介護保険や生活保護等の助言を受けサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしぶりを報告書と写真とあわせて報告している。金銭管理については、出納帳に領収書を添えて定期的に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がグループホームに奉仕作業に来て、畑にパイナップルやバナナなどや四季折々の野菜を作ったりして。このような共同作業の時間などを通して運営や苦情、相談ごとなど何でも話し合い、意見を運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当者が変わると利用者や家族にも不安が出てくるので、引継ぎ期間を長めに設けて、ダメージが出ないように工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に挑戦するなど、職員は、資質向上に取り組んでいる。月例の事業所内研修や法人内研修、関係機関主催の研修に参加し、復命研修もしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奄美地域グループホーム研修会に所属し、研修の折に、管理者・職員の交流をしている。また、他のグループホームとも交流し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望で待機中の人には、見学や体験参加などを通じて、顔なじみになり、納得の上、サービスの利用にはいるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑の野菜の収穫時期や、四季折々の風習、アブラソーマンなど伝統的な調理方法、生活習慣など生活の知恵を入居者から学んでいる。困りごとの時など本人から労わりや慰めを受けるなど支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者じっくり寄り添い、本人の動きやしぐさから思いや意向を汲み取るようにしている。本人の意向に沿った支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向・特質を把握すると共に、家族の意向を聞き、スタッフのカンファレンスを通して介護計画を作成している。利用者本位の細やかな介護計画から、異食症の利用者の行動改善が見られるなどの効果を生み出している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化時には評価の見直しをして、状況に即した計画を作成している。特に退院後には入院前と比べて認知症状の進行などが見られ、きめ細かなプランを作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や通院の支援や、自宅訪問支援、外泊支援、移送サービスなど持てる機能を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と話し合い、本人や家族の希望に即した医療が受けられるように支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在延命対策中心に取り組んでいるが、主治医からホームでの看取りについての方向性を打診されており、検討の段階である。		看取りの方針をまとめあげ、利用者や家族・職員・主治医の間で共有されることが期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は採用時に守秘義務の誓約をしている。排泄・食事・入浴等のサービス場面で、プライバシー - や誇りを傷つけないようさりげなく支援をしている。ささやかな行動でも一緒に喜び、誉めるように心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な流れはあるが、個々人の希望や体調により、状況に即して起床・入浴・食事・就寝などその人のペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑から野菜などを一緒に採り、利用者から、好みや希望を聞き献立を作ったり、下拵えや配膳などそれぞれができることを行い、職員と一緒に食事を楽しむように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	就寝前の入浴希望や、シャワー浴、足浴、職員との同伴入浴など個々人の要望に即して入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	島唄を歌ったり、踊りをしたり、小物作りなどの楽しみごと、菜園の手入れや収穫の役割分担などそれぞれの生活の特性を活かしていけるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や、隣接した病院のデイ・ケアでの交流や、買い物、病院のデイケア送迎車両への便乗、ドライブなど外出への支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を十分理解して、日中は鍵をかけていない。入居者は自由に出入りできるように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火・避難訓練は昼間・夜間想定で実施している。近隣の医療機関や地域の協力も呼びかけている。災害時に備えて、備蓄などの対応もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスのもとで、栄養バランスのある食事を提供し、水分の摂取にも配慮している。脱水症状を起こさないように、健康状態や身体状況にも配慮した細やかな支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	糸車で大島紬の糸撚りをができるなど、馴染みの環境づくりがなされており、自然の採光や、風通しなど土地の生活環境を移しこんだ工夫がなされ、居心地良い空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みの小物入れや、子ども・孫からの贈り物・ソファを置くなどして居心地よく安心して暮らせるような居室となっている。		